

マネジメントコース研修生のつばやき

編集者注：このコンテンツは、マネジメントコース（※）の研修生が持ち回りで担当し、それぞれの所感を述べたものです。

※ 地方自治体職員が、自治大学校の実務や、研修（第1部課程等）の履修によって、実践的に高度の政策形成能力及び行政管理能力の向上を図るもの。

4月にマネジメントコースに着任してからの期間は長いようであっという間に過ぎてしまいました。その中で感じたことをあるがままに振り返ってみたいと思います。

1 生活面について

居室は、備付デスク、ベッド、そして埋まることのあるのだろうかと思うほどの本棚があります。最初のうちは窮屈に感じていましたが、今では快適に生活できています。

食事の面では食堂があるため、3食（時期により休業）ともバランスの良い食事を摂ることができます。

また、研修生同士、日常生活をともに過ごし（時には一杯をともにしながら）、親睦を深めています。研修生は同じ地方公務員等ではありますが地域や都道府県や市町村の違いがあるからこそ、談話に深みがでてくると感じています。このひと時は自治大学校の最大の魅力と言えるでしょう。

2 仕事面について

研修課程の運営中は緊張の連続です。自治大学校の講義は一つ一つの講義が各界の第一線でご活躍の方で構成されているため、先生が実施したい講義を正確に行えるか、手落ちがないかなど考慮すべきことは無数にあります。一方でそれ以上に講師の先生とメールや講義前のひと時を雑談できることに大変な誇りを感じています。また、テキストやメディアなどではうかがい知れない、ご本人の人柄に触れることもできることは担当をされていて一番の醍醐味と思っています。

3 まとめ

ここまで、思いつくままに自分の所感を書いてきましたが、運営側の立場しか経験したことがないため、自分の自治大学校の研修課程としてはまだまだ道半ばにすら至っていないと思います。自分が研修を受ける時期までしばらく時間があります。それまでは、職員として引き続きしっかりと運営に取り組むとともに、自治体研修生や総務省の方、課程を共に支えてくれているチームメンバーと過ごす今の時間を大切に、与えられた環境に感謝しつつ1日1日を過ごしていきたいと考えています。（S. U）



・着任初日の寮居室の様子



・自治大学校正門前の桜の木（4月）